

- 問1 663年の白村江の戦いにおいて、倭（日本）は百済の復興を支援しましたが、唐・新羅の連合軍に大敗を喫しました。この敗北を受け、大宰府周辺の守りを固めるために佐賀県に築かれた「基肄城（きいじょう）」などの山城には、どのような背景や目的がありましたか。（2019年 佐賀県公立入試 類似）
1. 租・庸・調などの重い税負担に苦しんだ農民たちの反乱を鎮圧し、大宰府の役人が地方を監視する拠点とする目的。
 2. 唐や新羅による日本本土への侵攻という国家的危機に備え、九州の政治・外交の拠点である大宰府を防衛する目的。
 3. 朝鮮半島への再出兵を計画するための軍事訓練施設として、大陸に近い九州北部の山岳地帯に兵力を集結させる目的。
 4. 仏教による国家の鎮護を目的として、大宰府を望む山の上に広大な寺院や仏塔を建設し、外敵を退散させる祈祷を行う目的。
- 問2 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）は、それまでの氏姓制度のように家柄で地位が決まる仕組みを改め、個人の才能や功績に応じて役人の位を授ける制度を整えました。この制度を何といいますか。（2021年 和歌山県公立入試 類似）
1. 班田収授法
 2. 冠位十二階
 3. 大宝律令
 4. 十七条の憲法
- 問3 天智天皇の死後の皇位継承争いとその後の政治の動きについて説明した文として、正しいものはどれですか。（2024年 岩手県公立入試 類似）
1. 争いに勝利した大海人皇子が即位し、律令制度を基盤とした天皇中心の国家体制の整備が進んだ。
 2. 争いの結果、律令制度は廃止され、地方の有力豪族による分割統治が再び行われるようになった。
 3. この争いによって、中国の唐との外交関係が完全に断絶し、国風文化が発展する要因となった。
 4. この争いを機に武士の勢力が台頭し、政治の実権が貴族から武士へと移り変わるきっかけとなった。
- 問4 6世紀末、日本初の女性天皇である推古天皇が即位した際、天皇を助けて政治を行う「摂政」という役職に就き、有力豪族と協力して天皇中心の国づくりを進めた人物は誰ですか。（2021年 愛媛県公立入試 類似）
1. 中臣鎌足
 2. 足利義満
 3. 中大兄皇子
 4. 聖徳太子
- 問5 7世紀後半の東アジア情勢と、それに対する日本の対応について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2018年 福島県公立入試 類似）
1. 白村江の戦いで敗れた後、新羅と同盟を結ぶことで唐の侵攻を防ごうとし、その外交交渉の拠点として太宰府の周囲に水城を設けた。
 2. 白村江の戦いに勝利した後、朝鮮半島への影響力を強めるために太宰府を設置し、大陸からの使者を迎えるための施設として「水城」を建設した。
 3. 白村江の戦いで敗れた後、太宰府を守るために水城を築き、さらに九州北岸の守備のために東国から兵士を集めた「防人」を配置した。
 4. 白村江の戦いの直前、唐の侵攻を予見して太宰府の北側に水城を築き、西日本の諸豪族から徴兵した「防人」によって守備を固めた。
- 問6 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）は官吏や貴族が守るべき規範として「十七条の憲法」を制定しました。この中で、「和を貴しとなす」という言葉に代表される社会の秩序や礼儀を説いた、中国の孔子を始祖とする思想は何ですか。（2018年 滋賀県公立入試 類似）
1. 仏教
 2. 道教
 3. 神道
 4. 儒教
- 問7 5世紀ごろの朝鮮半島の情勢を説明した文として、当時の勢力図や外交関係に基づいた正しい記述はどれですか。（2018年 岐阜県公立入試 類似）
1. 中国大陸の唐が、朝鮮半島南部の伽耶（任那）地域を直接支配した。
 2. 朝鮮半島北部の新羅が、百済を圧迫して日本への文化伝播を独占した。
 3. 朝鮮半島南西部の百済が、高句麗の南下に対抗するため大和政権と交流した。
 4. 高句麗が朝鮮半島の南東部を領有し、大和政権に仏教を伝えた。
- 問8 7世紀後半、日本（倭国）は朝鮮半島への出兵で大敗したことをきっかけに、急速に国家体制の整備を急ぐこととなりました。この時期の歴史的な流れについて説明した文として、正しいものはどれですか。（2020年 奈良県公立入試 類似）
1. 白村江の戦いで敗戦後、国内の守りを固める必要が生じ、のちに壬申の乱を経て実権を握った天武天皇らが藤原京の造営や律令の整備を進めた。
 2. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に勝利したことで、日本は朝鮮半島での影響力を強め、その記念として藤原京を造営した。
 3. 藤原京を造営した後に白村江の戦いが起き、その混乱に乗じて壬申の乱という後継者争いが発生した。
 4. 壬申の乱で勝利した持統天皇が、百済を救援するために白村江の戦いを引き起こし、その戦費をまかなうために藤原京から平城京へ遷都した。
- 問9 7世紀から8世紀にかけて、日本が天皇を中心とした中央集権的な国家体制（律令国家）を形成していく歴史的な流れを、時系列に沿って正しく説明しているものはどれですか。（2019年 佐賀県公立入試 類似）
1. 聖徳太子が冠位十二階や十七条の憲法を定めて天皇の権威を高め、その後、中大兄皇子らが大化の改新を開始し、8世紀初頭に大宝律令が完成して体制が整った。
 2. 大宝律令の完成によって国家の仕組みが整った後、その基本精神を広めるために聖徳太子が十七条の憲法を制定し、さらに中大兄皇子が大化の改新を断行した。
 3. 中大兄皇子らが大化の改新によって蘇我氏を倒した後、聖徳太子が大陸の制度を取り入れた冠位十二階を制定し、それらが最終的に大宝律令としてまとめられた。
 4. 聖徳太子が十七条の憲法を制定した直後、これに反発した中大兄皇子らが大化の改新を起こして律令国家を否定したが、8世紀に再び大宝律令が制定された。
- 問10 7世紀半ば、朝鮮半島の北部に高句麗、南東部に新羅、南西部に百済が位置していた時代、中大兄皇子らは、唐と新羅の連合軍によって滅ぼされた「半島の南西部に位置する国」を復興させるために大軍を派遣しました。この出来事に関連する戦いの名称として正しいものはどれですか。（2026年 青森県公立入試 類似）
1. 白村江の戦い
 2. 刀伊の入寇
 3. 壇ノ浦の戦い
 4. 元寇
- 問11 645年に中大兄皇子らが中心となって始まった大化の改新の後、日本は朝鮮半島での戦いに敗れ、外交・国防上の大きな転換期を迎えました。この時期の出来事について述べた文として最も適切なものはどれか。（2025年 岐阜県公立入試 類似）
1. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した後、侵攻に備えて九州に水城を築き、都を近江大津宮へ移した。
 2. 唐や新羅の脅威に対抗するため、中大兄皇子は天皇への即位を辞退し、蘇我氏とともに集団指導体制を敷いた。
 3. 白村江の戦いで新羅を援護して唐を退けた後、百済との同盟を強化して朝鮮半島での権益を拡大した。
 4. 白村江の戦いの敗北を受けて、地方を統治する国司の権限を大幅に強め、各地方の豪族に独自の軍事権を与えた。
- 問12 聖徳太子が「冠位十二階」や「十七条の憲法」を制定した大きな目的として、最も適切なものはどれか。（2020年 熊本県公立入試 類似）
1. 隋から来た留学生に日本の進んだ法制度を示すため
 2. 天皇を中心とした中央集権的な国家の基盤を築くため
 3. 地方の有力な豪族に領地の永代支配権を認めるため
 4. 仏教を排除して日本の伝統的な神道を保護するため